

学校運営の舵を取るトップに聞く

LEADERS

File 01 石坂康倫

Yasutomo Ishizaka

京北中学校・高校 校長



「新しい京北」誕生に向け 先生方と学校改革に 取り組んでいます

いしざか・やすとも

1951年生まれ。76年東京学芸大学卒業。東京都立狛江高校、八潮高校定時制教頭、立川高校教頭、東京都立大学附属高校校長、桜修館中等教育学校校長、日比谷高校校長などを経て2012年より現職。著書に『日比谷高校は進化する』（学事出版）

まとめ／堀水潤一 撮影／吉永智彦

2015年に校舎移転、男女共学 中高一貫教育校としてスタート

本校は来年度、校名も「東洋大学京北中学校・東洋大学京北高等学校」と改め、新校舎へ移転し、男女共学の併設型中高一貫教育校として生まれ変わります。その舵取りを期待され、長く都立高校に勤めてきた私が校長に就任したのは2012年のこと。生徒のあいさつがすばらしく、先生方も好感がもてるというのが第一印象でした。そうした良さをもっと伸ばしていきたいと感じました。

ただ、時間はわずかしかなかった。赴任翌月には、新たな学校目標として「本當の教養を身に付けた国際人の育成」を掲げました。私が考える教養を簡潔に表すなら、物事を俯瞰する力や探究心であり、心の豊かさと思いきりです。東洋大学が掲げる「国際教育」「キャリア教育」「哲学教育」（本校では、倫理や道徳を含む生き方教育）に本校も力を入れることにしました。高校1学年に学校設定科目「国際英語」を設置したり、主要5教科を万遍なく学ぶカリキュラムへの改編にも着手しました。

赴任後は50余人の全教員の授業を見学し、その日のうちに一人ひとりと1時間におよぶ反省会を行いました。また、自らが目標を立てる自己申告書をもとに、全員と面談を行い意見交換をします。その他、全教員が難関大学の入試問題を解き、指導計画案を提出するなど、授業力向上と進学対策に全力であたっています。教員研修は年に10数回、新

任研修は年17回を数えています。生徒の「チャイム前着席」も徹底しました。教員がチャイム前に教室に入れば、授業に臨む生徒の姿勢も変わります。生徒が自ら学ぶ自主性・自発性を育むために、新校舎移転後には「ノーチャイム」「ノー放送」を実施することを検討しています。

ボトムアップの循環をつくり出したい

こうした校長の方針を先生方は理解し、受け入れてくれました。都立学校の校長職に就いて以来、私のテーマは「トッパダウンとボトムアップの確立」でした。リーダーシップはもちろん重要ですが、単に従わせるだけのトッパダウンでは物事はそこで終わってしまいます。そうではなく、校長の投げかけに対して「私はこう考えます」という先生方の声を吸い上げたうえで、実行へと移し、再びボトムアップを引き出すという循環こそ大切です。実際、帰宅しようとする私をつかまえ、自分の考えや思いを伝えてくれる若い先生もいます。それらに耳を傾けることで、さらに意欲と責任感を向上してくれているようです。「人の意識を変えろなど無理。そう簡単に学校は変わらない」という方もいますね。そんなことはありません。確かに簡単ではありませんが、人事異動などなくても学校は変わっていきます。そのことを私はかつての勤務校で実感してきました。リーダーが臆せず、ごまかさず、自分の気持ちをまっすぐに伝えれば、必ず互いの思いは通じます。新しい京北に期待してください。

京北中学校・高校
(東京・私立)

1887年哲学館(現東洋大学)として創立。2015年度より文京区白山新校舎へ本移転。男女共学化、東洋大学附属校化、併設型中高一貫教育校として新たなスタートを切る。移転後の正式名称は東洋大学京北中学校、東洋大学京北高等学校(通称・東洋大学京北中学高等学校)